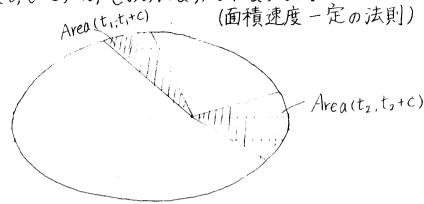
Area (t, t+c) は、Cのみにより、たによらない。

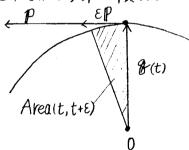


 $Area(t_1, t_1+C) = Area(t_2, t_2+C)$

- (iii) 惑星が太陽の周りを回るのにかかる時間の2乗は,軌道の長軸の 長さの3乗に比例する。
- (ii) により、 limy Area (t, t+E) は tによらするい。 と サ 第1積分の性質

 $\lim_{\epsilon \to 0} \frac{A \operatorname{rea}(t, t + \epsilon)}{\epsilon}$ を 8i(t) と名の微分 $d = p_i$

で表すと、これが、第1積分。



とが十分に小さいとき、

Area $(t,t+\varepsilon)$ = Δ g(t) $g(t+\varepsilon)$ 0 の面積

$$= \frac{\varepsilon}{2} (g_1 P_2 - g_2 P_1) \stackrel{\text{def}}{=} \frac{\varepsilon}{2} (\mathcal{F} \times \mathcal{P})$$

よって $\lim_{\epsilon \to 0} 2 \text{Area}(t, t+\epsilon) = \mathcal{G}(t) \times \mathcal{P}(t)$: 角運動量